

大分合同新聞

◎大分合同新聞社
大分市府内町 3-9-15
TEL.097-536-2121

石仏とフグに甘えず魅力磨け

大分合同新聞社が、次代を担う若手リーダーと一緒に地域の未来を考えるミライデザイン会議「ハピカム」第6弾白杵市編が3月3日、同市の白杵市中央公民館などで行われた。分科会は「一次産業」「観光資源」「地域産業」の三分に分かれて白杵の課題や未来をつくるキーワードを考え、それを受けての総括会議でさらに議論を深めた。会議の要旨を紹介する。総合アドバイザーは大分大学教育福祉科学部准教授の田中修二さん。総合コーディネーターは三股秀明大分合同新聞社編集局長(肩書きと年齢は当時)。



白杵市

2005年、旧白杵市と野津町が対等合併して、新「白杵市」が誕生した。同市は大友宗麟がつくった城下町。江戸時代には稲葉家の白杵藩として栄えた歴史がある。旧野津町を中心に、ピーマンなどの園芸作物や高糖度甘柿甘太くんなどの農業も盛ん。伝統産業としてのみそ、しょうゆ、酒などの醸造業、造船に加え、近年は半導体企業も立地している。国宝白杵石仏や二王座歴史の道は大分県を代表する観光地。「白杵ふぐ」は今や全国ブランドとして知られるようになった。

これだけの地域資源を持つ白杵市を、未来に向けてどうデザインしていくか。「ハピカム白杵市編」では「一次産業」「観光資源」「地域産業」の三分の分科会に分かれ、地域を担う20〜40代の若手リーダーたちが地域の今と未来について語り合った。各分科会にはそれぞれ流通業、旅行業、シンクタンクからコーディネーターが参加。専門の視点から具体的なアドバイスも出され、議論は深みを増した。

各分科会では課題として「所得」「PR不足」「白杵らしい気概を持つ」「キーワードとして「守りつなぐ」「気軽さ・連携」「一品」が挙げられた。総括会議ではそれらを共有

若手リーダー熱い議論

し、分野を超えて議論を進めていった。話し合いの中で参加者は、課題の根底が実はつながっていることを実感。「PR不足を解消すること、白

出し、同じようにつながっている三つのキーワードを実践していくことを確認して、「愛する白杵」のために今後つながりを深めていくことを誓い合った。



主催/大分合同新聞社 共催/白杵商工会議所 野津町商工会 協賛/国立大学法人 大分大学 株大分銀行 株NTTドコモ九州大分支店 日本たばこ産業株熊本支店

白杵市内のプレスセンターです。大分合同新聞は私たちがお届けします!

- | | | | |
|--------------|----------------|----------------|----------------|
| ●野津東部プレスセンター | 白杵 一平 ☎32-4288 | ●江無田プレスセンター | 佐藤 雄一 ☎62-3035 |
| ●川登プレスセンター | 広田 久子 ☎32-7527 | ●熊崎プレスセンター | 吉田 浩 ☎62-3541 |
| ●野津南部プレスセンター | 首藤 博行 ☎32-2660 | ●海辺・下ノ江プレスセンター | 稲垣万三郎 ☎62-5022 |
| ●白杵中央プレスセンター | 福島 秀樹 ☎63-1139 | ●南津留プレスセンター | 高橋由貴子 ☎65-2421 |
| ●白杵港町プレスセンター | 山本 伸一 ☎62-2868 | ●佐志生プレスセンター | 中嶋フジ子 ☎68-3534 |



1次産業

全国へ「ほんまもん農産物」

出た課題は「所得」。かなりストレートな表現だが、1次産業の所得が低いため従事者が減っている、逆に所得が向上すれば新規就業者も増えていくだろう、ということ。キーワードは「守りつなぐ」。農業に関しては臼杵市が有機農業を進めており、有機の里づくりを指している。荒廃した土地を元に戻し、未来につないでいくということから提案された。1次産業では甘太くんやかぼすぷり、タチウオなど売出し中の物があるが、分科会では有機農業の話が中心となった。「いい物を食べよう」と市が推進している。それをどう伝えていくかが大事で、食育の話にも広がった。地元で物を食べるのは大切だという思いを未来につなげていこうと話した。守りつなぐという意味では、食材は文化であるという考えも根底にある。有名な臼杵煎餅はショウガが使われているが、地元産ではない。臼杵石仏の周りはかつてショウガの産地だった。稲葉家が用いた保存食との言い伝えもあるほど古い物、歴史的なストーリーも含め後世に残していきたいとなった。

観光資源

気軽な食・旅と新しい土産を

課題は「PR不足」。臼杵市の観光の現状をみると、統計では臼杵石仏の入場がこの10年で10万人減っている。一方でボランティアガイドは増加傾向にある。臼杵には素材としていいものがたくさんあるのに、PRの仕方がまずい。魅力が市外・県外に届いていないという話になった。市内の同土で「あの人は何をしているか」という情報共有が図れていないのではないかという、果敢として課題を掲げた。キーワードは「気軽さ」。連携。気軽にフグを食してみたいとの発言から発展させたのが「気軽さ」。臼杵観光を気軽に楽しみたいとの声が多いのではと指摘された。もう一つの「連携」は課題を解決するための方法。分科会の中でも互いに顔は知っているが、何をしているのかわからない人がいた。話が通じているのかわからない人がいるのかを語り合うことが大事ではないか、知る場をつくらなければならない意見が出た。特に若い世代間の情報共有を図ることが観光浮揚につながる提案された。

地域産業

気概持ち「二〇一品」作ろう

臼杵には観光や食品を含めていいものたくさんある。かぼすぷりや歴史的なストリーなど、全てが売れ出している素晴らしい資源になっている。それにもかかわらず、臼杵で生活している市民が充分知っているだろうか、勉強不足、PR不足ではないかとの意見が出された。また、知ってはいなくても誇りを持っておらず「臼杵だから」など卑下することも多いと指摘された。もっと自分たちの強みを知って、生かしていかうとの思いを込めて、課題は「臼杵らしい気概を持つ」という言葉になった。キーワードは「二〇一品」。一村一品など、〇の中にさまざまな言葉を入られるということからこのキーワードとした。臼杵にいいものがたくさんある中で、それぞれが一品というプライドを持って売り込んでいくことが、これから臼杵として必要になるのではないかと。ブランド化という意味と臼杵の普及活動という両方の意味を込めて決定した。



総合コーディネーター 三股 秀明 (Hideo Mima) | 総合アドバイザー 田中 修二 (Shuji Tanaka) | 地域産業/コーディネーター 藤原 敦之 (Atsuyuki Fujiwara) | 地域産業/アドバイザー 後藤 智史 (Tomohisa Goto) | 地域産業/若手リーダー 可兒 愛一郎 (Ai Aichi) | 地域産業/若手リーダー 藤原 徹也 (Tetsuya Fujiwara) | 地域産業/若手リーダー 北山 瑞さん (Mizuki Kitayama) | 地域産業/若手リーダー 村田 信幸 (Shinetsu Murata) | 観光資源/コーディネーター 安部 亮 (Ryo Abe) | 観光資源/アドバイザー 三浦 基路 (Motochika Miura) | 観光資源/若手リーダー 三重野 芳樹 (Yoshiki Mieno) | 観光資源/若手リーダー 古谷 美和 (Mika Koya) | 観光資源/若手リーダー 安野 祐二 (Yūji Yasuno) | 観光資源/若手リーダー 吉良 麻美 (Mami Kira) | 1次産業/コーディネーター 前田 智也 (Tomoya Maeda) | 1次産業/アドバイザー 土井 鋼一 (Koichi Doi) | 1次産業/若手リーダー 広戸 一宏 (Kazuhiro Hiroto) | 1次産業/若手リーダー 矢田 しのぶ (Shinobu Yada) | 1次産業/若手リーダー 後藤 慎太郎 (Shintaro Goto) | 1次産業/若手リーダー 桑野 竜永 (Ryuetsugu Kuwano)

温かい町が生む「一白百品」

総括会

人づくりに必要な所得

三股 それぞれの分科会で出された課題とキーワードについて議論していきます。1次産業で出た課題は「所得」です。後藤 慎太郎 人づくりという課題はどの産業にも当てはまりますが、それには臼杵に安心して暮らせるだけの収入が必要です。とりわけ1次産業は、所得が向上すれば課題が解決する側面が大きいと思います。

三股 守りつなぐために人の連携

田中 今回の分科会では「文化」というものが話し合われたのが面白かったです。文化は歴史を持っていて、歴史をひも解けばいろいろなつながりが見えてきます。気軽さというキーワードですが、気軽さが単に軽くなるだけでなく本質的な楽しさとしてあるためには、一方で厚みのある何かしらが必要で、その一つは歴史を学び、文化の層をしっかりと捉えていくことです。臼杵に足りないのは大学と博物館ではないでしょうか。大学を誘致するの

勝つと思う方が勝ち

後藤 慎太郎 僕は農家とか百姓とか言われるのが大嫌い。農業は命を支えている産業で、もっと誇りを持っていいと思います。われわれがこの地域に住んで働いて誇らしいと思っていれば、自然に外からも人が来ると思っています。

他業種とも連携

三股 課題の解消方法や目指すべき方向として、キーワードの話をしていきたいです。1次産業の「守りつなぐ」は地域づくり、人づくりにもつながります。

大分大学に住んでもらう

田中 県内はどこも「人が少ない」と言われている中で、うちの大学は人が多い。学生寮は2年生まで退寮しないと決まっています。臼杵市が交通費や家賃を補助して学生に住んでもらって、学生を町づくりに引き込んでいけば何か面白くないですか。今後は連携してつながってほしいです。

客引き付けるもてなし

三股 キーワードを基に具体的な何かを出すにはどうすればいいでしょうか。

三股 企業は社長として

後藤 臼杵には町並みや自然、フグなど資源がたくさんあります。三つの分科会とも課題は共有されていて、やるべきことは決まっています。感じました。つなぐ、連携というキーワードが出てきたので、「二〇一品」のように臼杵が一つになって百の物を創ってはどうでしょうか。外の人間は臼杵「フグ」を連想します。大分市の一消費者としては、ぜひ入り口を気軽にしてほしいところ。若い世代で継続的に集まって、習習を出し合って何かを生み出してほしいです。

三股 面白いアイデア

三股 面白いアイデアだと思いませんか。今後は連携してつながってほしい。そのお手伝いを新聞社にもさせていただきます。臼杵の未来のために一緒に頑張っていきたいです。

臼杵が好きなら好きと言おう

人をつないで、守ると同時に新しいものを創る基盤をつくっていくことで、みんなが笑える町にできればいいと思います。



三股 サッカーもそうですが、うまい選手が一人二人いても勝ちません。連携やチームワークが勝負の分かれ目です。今回いい機会ができたので、ぜひみなで何かやってみてはどうでしょうか。鹿児島県の指宿や宮崎県の飯塚に行くと、駅を降りた瞬間に、つながった人々の温かいおもてなしの心を感じます。人の温



田中 まちづくりに、一人一人が心の熱さが前提になりますが、数が多ければ多いほど熱い思いが外に見えてきます。臼杵にはJRで来ましたが、駅に降りた時に人の熱気が伝わって来ませんでした。住んでいる人の表情が町の雰囲気表れます。熱さを持った人を増やしていくことが必要です。



三股 分科会では、臼杵には観光以外のいろんな業種があるのに連携があまりないという意見が出ました。もっと他業種と連携を取って、外に向けたアピールにつながり、臼杵の町が良くなると思います。

三股 企業は社長として、臼杵の町が良くなると思いませんか。熱さを持った人を増やしていくことが必要です。

三股 企業は社長として、臼杵の町が良くなると思いませんか。熱さを持った人を増やしていくことが必要です。

三股 企業は社長として、臼杵の町が良くなると思いませんか。熱さを持った人を増やしていくことが必要です。